令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人高知県文化財団
施設名	高知県立美術館
内定額	5,626　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	ダンスの審査員のダンス	12月13日(土)・14日(日)	高知県立美術館ホール
公-02	COLD BLOOD	10月4日(土)・5日(日)	高知県立美術館ホール
普-01	「安居神楽」公演	1月3日(土)	高知県立美術館能楽堂
普-02	出前教室	9月30日(火)、11月13日(木)、11月21日(金)、11月25日(火)、3月2日(月)・3日(火)	各学校等

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	22	12	15
	公演事業	18	7	11
	（内、本助成対象事業本数）		3	2
	人材養成事業	1	2	1
	（内、本助成対象事業本数）		2	
	普及啓発事業	3	3	3
	（内、本助成対象事業本数）		3	3
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	185	177	185
	ホール名：ホール　　座席数：399	185	177	185
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	5,520	8,521	5,696
	公演事業	5,190	7,093	4,924
	人材養成事業	40	47	72
	普及啓発事業	290	1,381	700
	共生社会事業			
	その他　内容：		0	
	貸館事業入場者・参加者数	32,000	28,447	28,680
	その他　内容：共催事業	2,646	3,374	2,025
	計	40,166	40,342	36,401
開館日数		359	360	359
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		340	292	339
施設の利用日数		250	224	229
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		73.5%	76.7%	67.6%

備考	

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	18	38	5,190	5	4		1			8
	共催・提携公演（※2）	37	36	2,646	33	2		1			1
	貸館公演	185	210	32,000	18	108	14	17		4	24
	計	240	284	39,836							
令和6年度	主催公演（※1）	7	13	7,093	1		1				5
	共催・提携公演（※2）	5	5	3,374	3			1			1
	貸館公演	161	206	28,447	7	88	19	11		6	30
	計	173	224	38,914							
令和7年度	主催公演（※1）	11	17	4,924		1	2	1		1	6
	共催・提携公演（※2）	4	4	2,025	1			2			1
	貸館公演	169	203	28,680	9	105	15	11		4	25
	計	184	224	35,629							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・ 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・ 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・ 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	ダンスの審査員のダンス	目標値	460	65.0%	共同招聘先を含む公演評数	6件以上	愛知2件、上田（長野）2件、東京5件　計9件
		実績値	200	58.1%			
公-02	COLD BLOOD	目標値	720	90.9%	5段階評価アンケートで4もしくは5の回答	88%以上	96%（評価5：95%、評価4：1%）
		実績値	391	62.0%			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人高知県文化財団
施設名	高知県立美術館
内定額	5,626　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	ダンスの審査員のダンス	新たな芸術表現を高知から発信することを狙いとし、日本の現代の舞台芸術を開拓するアーティストを起用した公演を実施した。ツアー形式とすることで、各館の連携によりコストの低減と全国的な情報周知を果たせた。入場者・参加者数は 200 名で、入場者・参加者率 58.1%、収益率 75.8%だった。新しい舞台芸術を他の公立文化施設と連携出来たのは大きな成果となった。
公-02	COLD BLOOD	2017 年に招聘した「KISS&CRY」以来、同アーティストの再招聘を望む地域の声に 8 年越しに応える好機となり、舞台芸術と映画が同時に生成される高度な芸術性で、リピーター・新規層に深い感銘を与えた。一方、運搬費高騰や円安の影響で入場料金の引き上げを決断したが券売が伸び悩み、入場者数は 391 名（入場率 62.0%）に留まった。しかし、海外の先駆的な表現と出逢える場を持続させた取り組みは観客から高く支持され、地方都市における国際的な文化拠点としての信頼をより確かなものとした。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	・U30 チケットの購入者数（…県内の若年人口が減少する中で、芸術に触れる機会を創出し、積極的に利用してもらう創意工夫を行う）	・各公演とも U30 チケットの購入者が 10%以上	公-01「ダンスの審査員のダンス」では 36 名が購入し、全体の 18.5%を占めた。 公-02「COLD BLOOD」では 77 名が購入し、全体の 20.6%を占めた。
人材養成事業			
普及啓発事業	・神楽公演のアンケート回答者属性（…今年で 9 回連続した神楽公演が終了するため、企画全体の成果を評価指標とする） ・出前教室の S 評価	・過去の神楽公演のリピーター35%以上 ・90%以上	普-01「安居神楽」過去の神楽公演に来場したリピーター率 57.4%（アンケート回収件数 309 件、回収率 59.3%） 普-02「出前教室」S 評価合計：演劇 100%（40 件）、クラシック 100%（57 件だったが養護学校及び保育園は代表の先生のアンケートをいただいた。）
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	公-01 および公-02 は、新しい表現への受容度が高い高知の特性を捉えた事業となった。総客数には課題を残したが、最重要課題とした若年層・次世代層の開拓では、U30 チケット購入率が公-01 で 18.5%（36 名）、公-02 で 20.6%（77 名）と、目標 10%を大幅に上回る成果を収めた。両事業において SNS での視覚的発信や、公-02 では特に地元テレビ局の特集紹介と口コミが、若年層や新規層の集客に効果的に結実した。また公-01 は出演者によるダンスと演劇のワークショップ、公-02 はミニシアター連携を通じて鑑賞を深化させ、地域文化と共鳴する相乗効果を生み出した。地域と広く連動した次世代への波及において、質的に高い達成度を得ることができた。

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	普-01 新春恒例事業として 8 年連続で開催し定着した「土佐の神楽」登録 9 団体の正月公演が今年度で一巡した。参加状況の分析の結果、リピート率は 2 回目（19.9%）と 3 回目以上（37.5%）を合わせて 57.4%で、固定ファンの定着と認知度向上に確かな成果が見られた。伝統芸能の存続が危ぶまれる中、本事業による継続的な情報発信と機会創出は、文化遺産保護への社会的関心を高める契機となった。 普-02「出前クラシック教室」では、高知県在住のアーティストのなかでも教員経験や音楽教室の指導者経験など、子どもたちと交流し音楽の魅力を伝える経験と関心のあるアーティストを選抜した「アンサンブル・パレット」による音楽体験のワークショップを行い、S 評価を 100%いただいた。 「出前演劇教室」では、高知ゆかりの藤田桃子と彼女が所属するカンパニーデラシネラの代表小野寺修二を講師に迎え、身体を使ったコミュニケーションのワークショップを北川村立北川小学校、南国市立大湊小学校、南国市立三和小学校の 3 校で行い、参加した児童 40 人全員から S 評価をいただいた。学校の授業だけでは体験できない出前授業を通じて子供たちの感性を豊かにするという両事業は、高い評価をいただいた。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
アンケートによる観客の国際性への関心	「視野が広がった」「また海外からの招聘もの（今回のような企画）をやってほしい」との自由記述が 50 件以上 ※「良し悪し」ではなく、視野の広がりなど。	公-01「ダンスの審査員のダンス」のアンケート（回収数 94 件、回収率 47%）では、自由記述に回答した 63 件（全来場者数の 31.5%）のうち 74.8%が「大変良かった」「良かった」と今回の公演に関心を寄せた。 公-02「COLD BLOOD」のアンケート（回収数 214 件、回収率 54.8%）では、自由記述に回答した 160 件（全来場者の 41%）のうち、121 件（75%）が「視野の拡大」や「継続的な海外招聘」を熱望する回答を寄せた。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	公-01 国内のみならず世界の演劇シーンで活躍し続ける劇作家、演出家の岡田利規が作・演出を行い、世界のダンスシーンで活躍する中村恩恵、酒井はな、島地保武などが出演したダンスと演劇を融合させた公演を行い、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 公-02 にて国際性への関心は、目標 50 件に対し実績 121 件（242%）と大幅に達成した。自由記述の 75%が視野の拡大や海外作品の継続的な招聘を熱望し、地方における国際的な表現への強いニーズを実証した。英語の感想も寄せられるほど熱量ある感想からも、当館が「国際交流の窓口」として機能している裏付けである。「なぜ高知で」という驚きを伴う満足度は、地方における国際拠点としての認知度を上げ、目標を極めて高い水準で達成したと結論付けられる。 普-01 地域独自の伝統文化を多国籍及び次世代の住民へ継承するため、従来の解説に加え、「やさしい日本語」を用いて配慮を施した解説資料を配布した。これにより、来場した外国人に対しても内容の正確な理解を促すことができた。伝統文化を共通言語とした双方向のコミュニケーションが創出され、地域における多文化共生社会の実現に向けた国際交流の場となった。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
・ボランティア（カルチャーサポーター）日数	・36 日以上（月 3 回以上）	・活動は 72 日、人数は延べ 321 人
・貸館利用日数	・270 日以上	・貸館利用日数　185 日 （開館日数 359 日／うち利用可能日数 339 日、施設利用日数 229 日）

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域の文化拠点として、ボランティア組織（カルチャーサポーター）の刷新と大学との多角的な連携を通じ、質的な拠点機能を大きく強化した。 「カルチャーサポーター」については、組織再編と 8 年ぶりの新規募集を行い、多様な世代が参画できる基盤を整えた。特に展覧会枠の「マテリアル・ミュージアムⅡ」では、地域の端材・廃材を活用した創作活動の補助として多世代のサポーターが活躍し、地域資源の循環や親子などが気軽に参加できる場の形成に寄与した。地域連携においては、高知大学とのインターンシップ受入に加え、高知県立大学白岩ゼミとの連携により、教官による後払い制度を通じた学生への鑑賞機会提供を開始した。学生の日常に舞台芸術を組み込むこの試みは、将来的な観客基盤の形成に資するものである。 また、次代を担う子供たちへの活動として、養護学校や幼稚園等への「出前教室」を積極的に展開し、教育の場という日常空間において質の高い鑑賞・体験機会を提供した。 貸館利用は令和 5（2023）年度と同等の 185 日（目標 270 日）に留まったが、土日祝日は貸館や主催公演でほぼ全て利用があった。高知は急速な少子高齢化等を背景とした既存利用団体の定期公演等の中止の数は少なくなく、利用率への影響があると推察される。量的課題を精査しつつ、地域文化の創造拠点としての役割を今後も果たしていきたい。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・障害者割引の利用者数（…あらゆる人が鑑賞しやすい方法が周知されているか）	・公演事業 2 公演でそれぞれ 10 件以上	公-01「ダンスの審査員のダンス」では計 3 名が利用した。 公-02「COLD BLOOD」では計 30 名が障害者割引を利用した（S 席 19 名、A 席 11 名）。

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	公-01 では、高知市からの観客が 57.4%と半分以上を占めたが、四国内からは 16%、京都府、神奈川県からの観客もあり、公演情報の他地域への広がりも感じた。また観客年齢も 10 代から 70 代までと幅広く、公演事業に多くの方が関心を持っていることも分かった。さらに美術館主催事業に 3 回以上来たという方が 54.3%というリピート率の高さだった。 公-02 では、障害者割引の利用が 30 名（目標 10 名）に達した。実店舗以外の Web プレイガイドでのチケット購入を可能にし、SNS 等の媒体で積極的に周知したことで、利用者の利便性と認知向上に直結した。 アクセシビリティ面では、普-01 において「やさしい日本語」の資料を整備し、在住・訪日外国人の土着文化への理解を深める一助となった。また、長年継続している普-02「出前教室」では、来館が困難な遠隔地や小規模校、養護学校等へアーティストを直接派遣することで、普段芸術に触れる機会の少ない児童等に対し、鑑賞の障壁を下げて情操教育に寄与した。広報上の利便性向上と内容面の配慮の両軸から、多様な観客層に対する鑑賞環境の向上を多角的に図った。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

公-01「ダンスの審査委員のダンス」では、ダンスと演劇を融合させたような公演だったので「衝撃的でした。ダンス、演劇とは何なのか。自分の身体とは何なのか。領域を考えたことはなかったのですが、哲学的なようでいて、潜在する自意識を面白く捉えられた 2 時間でした。AI には作れない作品だと思いました。」や「今までに見たことのない舞台でした。非常に哲学的で言葉を考えながらダンスを見て、頭をぐるぐる回転させるけど、心地よい空間でした。ダンスの審査って本当に難しそうだと思いました。」「とても実験的なところが、夢中になりました。ことばと、ダンスと、音楽と、演技と、自然を生み出す脚本や演出などのエッセンスがおもしろかったです。」など新しいジャンルの作品に戸惑いながらも、その新しい世界に引きこまれている快感を多くの観客が味わっていた。

公-02「COLD BLOOD」は、2017 年の「KISS＆CRY」公演が台風により 2 日目が中止となって以来、再来を切望する地域の声を背景に、アーティストとの親交を絶やさず、その間東アジア圏の劇場との連携構築により、「日本初演・国内唯一」の開催を叶えたことは、地方公共ホールによる国際協働の先進的な事例といえる。再招聘にあたっては、前作の翻訳家や技術チームが再集結し、監督のオンライン監修のもとリリー・フランキー氏による日本語吹替を制作した。アーティストの意図を深く汲んだ質の高いナレーションは、観客を字幕から解放し、作品の精神性への深い没入体験を提供した。また、演出の核である「手指」のネイルケアを地元のビューティ専門学校が再度担当し、地域の専門技能が国際的舞台を支える独自の人的交流も継続された。機材トラブル時には、日頃から構築していた県内の公共劇場やテレビ局とのネットワークにより希少な機材を迅速に調達できるなど、地域連携が強固なリスク管理として機能したことも大きな成果である。特筆すべきは、8 年前に若年層として鑑賞した観客が「当時の感動が忘れられない」と再来場した事例であり、一過性の招聘に留まらない次世代への確かな文化継承と、地域拠点としての当館の存在意義を感じられた。さらに、伝説的なアーティストとして知るドゥ・メイの公演を宿泊先の広報物で知った旅行者が、急遽当日券を購入し「高知で観られるとは」と深く感謝する場面もあり、本事業が地域観光の付加価値向上にも寄与したことが伺えた。

普-01「安居神楽」公演の来場者アンケートでは、「伝統文化が脈々と受け継がれていることに県民として誇りを感じる」「人口減少により継承が困難だと思うが、末永く残ってほしい」といった郷土芸能への敬意と存続を願う声が多く寄せられた。また、専門家による解説資料を熱心に読み込みながら鑑賞する来場者が多く、「解説があったおかげで、一つひとつの所作に込められた祈りや意味がわかった」との感想が目立った。背景にある物語への理解を促すことで、伝統芸能が持つ精神性に触れる深い鑑賞体験を提供できた点は、専門家と連携した本事業ならではの成果といえる。

普-02 の出前教室では、地理的・環境的な制約を越えて、一人ひとりの心に寄り添う芸術体験の提供の瞬間にいくつか立ち会うこととなった。
出前クラシック教室では、山間部に位置する吹奏楽部のない仁淀川町の中学校で、ゲーム音楽をきっかけに生徒が一人トロンボーンの練習をしていると打合せの際に聞いていた。その彼の感想には「こんな機会があってとても嬉しく思います。僕は、去年からトロンボーンを始めましたが、人と演奏したことはありません。アンサンブル・パレットのグループ名の説明を聞いて、自分の音色と他の演奏者の音色を混ぜ合わせて 1 つの音楽にする。この言葉を忘れないように大事に記憶します」とありました。後日、彼は隣町の楽団へ誘われ、地域の大人と共に練習に励み、定期演奏会でのデビューも果たした。本事業が一人の青年の可能性を拓き、社会へと導く確かな契機となった。また「高知若草養護学校 土佐希望の家」では、全校生徒や PTA と幅広い層にリーチでき、親御さんから「日々の生活に疲れ、毎日葛藤する中、久しぶりに生の音楽を聞いて音楽ってこんなに素敵なのかとびっくりした、帰ってからも聞いてみようと思う」と涙ながらに感想をいただいた。交流の時間には、ほぼ全員の参加者が演奏家との対話や写真撮影を楽しみ、特別支援教育の現場に情操教育を越えた心に寄り添う取り組みを届けることができた。

また出前演劇教室では、児童たちがパントマイムという未知の表現に触れた際の驚愕と真っ直ぐな好奇心に溢れ、自身の身体で講師の面白い動きを再現しよう、探究しようとチャレンジし、講師に褒められたいという向上心をみせる姿に、先生方からは「普段の授業ではなかなか見られない、子供たちの生き生きとした表現力に驚いた」「内に秘めた能力を引き出してくれた今回の教室に、心から感謝しています」という声が寄せられた。特に、当日転校してきたばかりの児童がクラスに馴染む温かなきっかけになるなど、芸術が子供たちの心の距離を縮め、健やかな人間関係を育む一助となったことは、本事業の大きな成果であると感じられた。

「出前演劇教室」の児童からのアンケートでは、子どもらしい素直な感想が多く「今回初めてパントマイムをして何かを見えるようにしたり、最後のバックのやつは固定することがむずかしかったです。ぼくは小野寺さんの手で、かべを表げんするのがすごいなと思いました。藤田さんはマネキンのまねがすごくじょうずでした。またくる機会があったら最初の手をたたくやつをやりたいです。」

など演劇教室をまたやってみたいという声や、「わたしは、モモコンとオノデランに教えてもらった、パントマイムを見て、すごいなぁと思いました。家族などに教えてみたいです。パントマイムをしらない人にはやく教えて、見せてあげたくなりました。はじめてしったことは、バントマイムはギリシャ語だということです。パントは、すべてという意味でマイムはまねするという意味で、びっくりしました。またやってみたくなりました。ありがとうございました。」と家族にパントマイムを披露するなど楽しんでいる様子がうかがえ、この事業の広がりと新しい観客層の育成を感じられた。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	財源については、県からの指定管理料、事業収入等を主要な財源としているが、最近の物価高騰の影響等もあり、厳しい予算計画となっている。このため、各種助成金の獲得等に積極的に努めることとしている。	ホームページやSNSをはじめとした各種の情報発信に努めることで一定の券売・集客にはつながっている。 会員制度等については、引き続き今後の課題である。
目標(値)（※2）	各種助成金については10,000千円を目標とする。また、年齢などの属性分析に基づいたチケット料金の設定を行うなど、収入増に向けた取り組みを引き続き行う。	事業ごとにターゲットを定め、積極的な情報発信を行うことで今後も券売・集客に努めていく。
実績(値)	助成金は、併せて10,000千円以上を獲得することが出来た。またU30券などを設定し、収入増に向けた取り組みも出来た。	公演事業「ダンスの審査員のダンス」「COLD BLOOD」ではU30券、「COLD　BLOOD」ではS席、A席を設けた。
団体の自己評価	目標額は達成することが出来たが、今後はさらなる多様な財源の確保に取り組む必要がある。	ホームページやSNS発信や30歳以下対象チケットの発売、全国的なチラシの折り込みなど積極的な広報を行い集客に努めた。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	世界の優れた舞台芸術について、国内外の他館と連携して取り組み、効率的な事業運営を図っている。	県の所管課である文化振興課だけでなく、事業特性に応じた様々な組織と連携を図り、周知・協力体制を構築する。
目標(値)（※2）	国内外の劇場・文化セクターと連携した共同招聘・共同製作に引き続き取り組んでいく。	文化振興課とは日常的に意思疎通ができる体制が構築されており、その他の部署とも積極的に情報共有を図っていく。
実績(値)	「ダンスの審査員のダンス」 企画製作：　愛知県芸術劇場、Dance Base Yokohama 相互連携：　東京芸術祭　・北九州芸術劇場、サントミューゼ（長野県上田市） 「COLD BLOOD」 後援：　駐日ベルギー王国大使館 東アジア招聘連携：台中国家歌劇院・衛武營國家藝術文化中心(台湾)	文化国際課の職員が公演事業や、出前教室などに足を運ぶなど積極的に館の活動への意思疎通を図っている。
団体の自己評価	国内の劇場との連携公演のみならず、海外の劇場と連携し海外から公演を単独招聘できた。	文化国際課、国民文化祭課、広報広聴課、建築課などと意思疎通をはかり、県公報や修繕についての情報共有を常に図っている。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	美術部門・舞台芸術部門の経験が豊富で芸術面をしっかりと統括できる人材（館長（学芸員））を配置している。	美術部門・舞台芸術部門の組織運営の経験が豊富な人材（館長）を配置している。 また、予算管理・執行を統括する人材（副館長（行政経験者））も併せて配置している。
目標(値)（※2）	劇場を有する美術館として、学芸員だけでなく舞台芸術に精通する専門職員も引き続き適切に配置する。	劇場運営の統括については、専門知識だけでなく組織運営の管理経験が豊富な人材を配置するとともに、行政経験があり予算執行を統括する者も配置するなど、各々の専門知識を有する職員を適切に配置する。
実績(値)	県立美術館が擁する劇場という特性を生かし、館長の学芸員的知見から分野の横断的な事業への積極的な取り組みを行った。	経営実務者の配置は館全体としても必要性があるので、実際に配置している。
団体の自己評価	指針や劇場法に謳われている専門人材についても、学芸員同様に確保・育成していく必要があり、この意識を常に館全体で共有していく	管理職ポストに経営実務者を配置するなどを計画し、美術部門・舞台芸術部門の組織運営の経験が豊富な人材（館長）を配置し、また、予算管理・執行を統括する人材（副館長（行政経験者））も併せて配置している。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	舞台や映画芸術に精通し、劇場運営の経験が豊富な専門職員を配置している。	職制は専門性をベースに整理し、経験や知識等に応じた役割分担を行っている。ホール事業のディレクションは主に館長・チーフが行っている。 【参考】館長（学芸員） 副館長（行政経験者） チーフ（舞台専門人材） 一般職員(舞台・映画専門人材)
目標(値)（※2）	関係者と協議を重ね、実務経験をより一層、積み重ねることなどにより専門性の向上を図っていく。	職員がそれぞれの立場で能力をしっかりと発揮できるように役割分担を行い、組織として事業実施に対応できる体制を構築する。
実績(値)	舞台芸術や映画芸術に精通した専門人材を配置し、公立文化施設協会の研修などにも参加している。	劇場担当課の管理職は総務課と兼任である。ホール事業の検討については職員及び館長が協議して行っている。
団体の自己評価	事業運営だけでなく、ロジックモデルの構築、大規模改修を含めた総合的な劇場運営を担える若手人材の育成が急務である。	劇場の事業は一定の評価は出来ると考えている。今後は役割分担とガバナンスに留意した人材配置が必要である。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	チーフは 40 歳代であり、担当職員は再雇用職員の他は 40～50 歳代の職員でチームを構成している。	R 6 年度までは副館長職に女性を登用していたが、退職により現在は昨年度に引き続きチームリーダー（チーフ職）への女性 1 名の登用となっている。
目標(値)（※2）	引き続き、年齢バランスも考慮しながら対応していく。	今後も管理職への登用も含め、適材適所を念頭に対応していく。
実績(値)	館長、副館長、再雇用職員（60 代）その他の劇場担当職員（40 代）。	チームリーダーへの登用は女性 1 名であるが、女性職員の割合は極めて高い。
団体の自己評価	契約職員も含め、各世代が着実に活躍できる環境を整えている。引き続き若年層の雇用を意識し、全体の年齢バランスに留意した人材確保を行っていく必要がある。	引き続き女性の管理職やリーダー職員への登用が必要である。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児や介護に配慮を要する職員に向けた支援制度は整備されており、館としては学芸員１名が短時間勤務制度を利用している。	職員全員が情報セキュリティや服務規律をはじめとしたコンプライアンスを遵守することの重要性を意識しながら業務に取り組んでいる。
目標(値)（※2）	引き続き制度の充実を図るとともに周知もしっかりと行い、対象者が出た場合は積極的な利用を呼びかけていく。	社会規範や法令順守の重要性を全職員が改めて意識したうえで行動ができるような人材を育成する。
実績(値)	劇場担当職員に該当者はいないが、学芸員に 1 名短時間勤務制度を活用している職員がいる。	情報セキュリティについての研修は未実施。
団体の自己評価	制度について、内容や情報の共有や啓発を進めて行く必要がある。	各種コンプライアンスの順守規定の教育について体制作りが必要であり、知識を得る機会を設けていく。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	高知県文化財団として各種のハラスメント防止を組織の最重要課題と位置づけて取扱内規を定めており、外部相談窓口も整備している。	相手方との信頼関係を構築し、お互いがしっかりとコミュニケーションをとりながら、適正な契約を交わしている。
目標(値)（※2）	職員全員がお互いを思いやる心を持ち、どのような行為がハラスメントとなるのか正しい知識を持つことでハラスメントを起こさない職場環境作りに取り組む。	文化庁の策定するガイドラインを元にアーティストと適正な契約を締結する。
実績(値)	財団職員かかる研修としてハラスメント研修を実施したほか、相談窓口についての情報掲出を実施した。	公演事業に出演する団体やアーティストに関しては、財団規定に基づき全て契約書を交わした。
団体の自己評価	ハラスメント研修を実施した。これが単発の研修にとどまらないよう、継続する。	団体やアーティストに関しては適切な契約を取り交わした。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
上演事業をはじめとする各種取組においては、コスト高騰や人口減少といった外部環境の制約に直面している。しかしながら、鑑賞機会の提供にとどまらず、県民の生活の中に多様な文化的接点を組み込むことで、創客および文化芸術への関与のあり方を拡張してきた。 「地域の中核」採択を契機として、事業単体ではなく館全体を俯瞰する視座が職員間に醸成されつつある点は、本助成で得た重要な成果である。美術館機能とホール機能を併せ持つ当館においては、ホール事業の独自性や役割が相対的に可視化されにくいという課題も明らかとなった。 今後は、ホールとしてのビジョンおよびミッションを明確化し、県の文化芸術振興ビジョンとの整合を図りながら、地域における創造・発信拠点としての機能を一層強化していく。これにより、単年度の成果にとどまらない持続的な文化基盤の形成に寄与することを目指す。

備考